

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループの経過報告・今後の予定

1 H24年度 第2回エゾシカ・陸上生態系WGの概要

平成24年10月25日(木) 釧路地方合同庁舎 第1会議室

(1) 主な議題

- ・H24シカ年度エゾシカ個体数調整実施計画について(報告)
- ・H24シカ年度モニタリング事業結果(速報値)
- ・個体数調整事業の評価方法について

(2) H24シカ年度エゾシカ個体数調整事業(別添1: H24シカ年度捕獲結果)

〈遺産地域内・環境省事業〉

- ・知床岬地区: 2月及び4月に各1回、仕切柵を用いた巻狩り
- ・ルサ-相泊地区: 流し猟式シャープシューティング及び囲いわな(1~4月)
- ・幌別-岩尾別地区: 流し猟式シャープシューティング及び囲いわな(1~4月)
仕切柵の設計(一部が囲いわなとして機能)

〈遺産地域外〉

- ・春苺古丹(林野庁): 囲いわな(12~3月)
- ・羅臼町内(羅臼町): 有害一斉捕獲(6月、2~3月)
- ・真鯉(斜里町): 囲いわな(6~2月)
- ・ウトロ(斜里町): 箱わな(6~9月)、銃器(6~2月)、有害一斉捕獲(1月)

(3) H24シカ年度モニタリング事業結果(速報)

- ・広域森林調査(岬、ルサ、羅臼、春苺古丹、陸志別、連山中腹、遠音別)
下枝は、高標高地及び羅臼側基部ではそれなりに見られたが、それ以外では見られなかった。広葉樹の稚樹はほとんどの地域で見られなかった。
- ・高山帯モニタリング調査(知床連山)
結果整理中
- ・個体数調整評価のためのモニタリング調査(知床岬、ルサ-相泊、幌別-岩尾別)
知床岬地区では、イネ科草本の草量やササ丈について昨年と比較して回復傾向が見られ、林縁における2m以下の葉量は顕著な増加が見られた。
ルサ-相泊地区及び幌別岩尾別地区では、隣接地でエゾシカ捕獲を行った地点に比べ、行っていない地点で採食圧が高い傾向が見られた。
- ・昆虫類指標検討調査
シカによる植生の改変が著しい箇所ではマルハナバチ類が少なく、特に長舌種はほとんど見られなかった。
チョウ類はシカの影響により増加する植物(ミミコウモリやハンゴンソウ等)をよく利用していたが、イラクサ類を幼虫の食草とするタテハチョウ類は植生の回復とともに増加する可能性がある。

(4) 個体数調整事業の評価方法について

- ・ 植生指標の検討状況と方針について説明、議論を行った。
- ・ エゾシカ生息数のモニタリング手法について、洞爺湖中島でのカメラトラップ調査等の事例紹介をいただきながら検討を行った。
- ・ これまでのエゾシカ保護管理の状況について図表にまとめた(別添2)。

2 今後の主な予定

- ・ 平成25年6月 平成25年度第1回エゾシカ・陸上生態系WG
H25シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画の検討
- ・ 植生指標検討部会の開催(時期未定)